

Development of a care model that enables people with diabetes and their Spouses to unite as a couple in diabetes education

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Hayakawa, Chie メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/19466

博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1774 号

学籍番号

氏 名 早川 千絵

論文審査員

主 査 (教授) 稲垣 美智子

副 査 (教授) 泉 キヨ子

副 査 (教授) 坂井 明美

稲垣

泉

坂井

論文題名 Development of a care model that enables people with diabetes and their

Spouses to unite as a couple in diabetes education

論文審査結果

：本研究は、糖尿病教育において糖尿病をもつ人とその配偶者が「糖尿病を持つ夫婦」としての力を発揮させるケアモデルを開発した。方法は、糖尿病教育で熟練した看護師により実施されている夫婦を同席させて面接する「夫婦同席面接」を題材にして4段階を経てケアモデル開発する方法を持って実施された。この夫婦同席面接を機に面接された患者の血糖コントロールおよび療養行動の態度が前向きになると高い評価を受けている技術である。1段階：実践されているケアの探求；27組の夫婦同席面接の参加観察とその後の経過についての焦点化面接をデータとし構造化した。2段階：理論的な考察；1で明らかになった内容に既存の理論による説明が可能かの裏づけをとった。さらに面接実施看護師に理論的基盤を付加した。3段階：ケアモデルの試案の作成、4段階：ケアモデル試案の評価；看護師6名からなるグループにフォーカスグループインタビューと糖尿病をもつ夫婦19名へのモデル適応による評価を行った。

その結果開発されたケアモデルは、希望する力、人間関係に関する知識と技術、ユーモアを理論的基盤として夫婦同席面接に臨み、面接場面の展開を査定しながら順次ケア提供し、意図的な場面展開し、その展開を通して糖尿病をもつ夫婦としての力が発揮されたことを確認し、面接を締めくくるといふ1連のプロセスで示された。夫婦の力とは「気づき」と「期待への応答」であると特定した。ケアは「心積もりと温イメージを持つ」「にじり寄る」「脇役に回る」「ユーモアで拡散する」などの8つを特定した。それにより展開させる場面は「患者と配偶者の互いの心根に触れ合う」をはじめとして7つが特定された。そしてこの1連のプロセスは、ポップアップ現象と自己組織化の原理を活用するという特徴を持つことを理論的に説明した。そしてこのモデルはフィット性、説明力、臨床での適応可能性の評価を得、ケアモデルとして十分活用可能であり、糖尿病教育モデルになりうるという結論を得た。

論文審査では、実践ケアを既存の理論で説明・関連づけそれを体系化しモデルとして開発されたものは他に報告例がないこと、糖尿病患者教育の新たなケアモデルとして今後普及されていく可能性を十分備えており、糖尿病看護の発展に大きく貢献すると高く評価した。また看護実践をモデル化する研究方法は確立されておらず、本研究方法は、看護学における技術の解明およびケア開発方法として発展する可能性も大きく、看護学の発展にも貢献するものとして評価された。公開審査では、ケアモデルの適応範囲についての質問がなされた。質問に対する答えの内容と態度、研究者としての見解とも適切であった。またプレゼンテーションについても十分吟味された内容であり高く評価されるものであった。以上提出された、論文および公開審査における態度と知識、見識等を総合し博士（保健学）合格と判定した。